

旧上川手村の学校の同級会で、「また一緒にあったね」と、話題になりました。



青木富美子さん
(明科地域)

10年前、横浜から生まれ故郷にUターン。健康教室への参加をきっかけに、地域のマレットゴルフやダンスなどの活動を行う

旧上川手村で幼少時代を過ごした私にとって、昭和30年の合併で、村が旧豊科町と旧中川手村(同年旧明科町に合併)に分かれたときは、村の人たちが急に他人になったように寂しい感じがしたのを覚えています。今は長峰山が整備されていますが、当時、旧上川手村の人たちが集ったのは、光城山でした。里山に登り、安曇平を一望したときの記憶が今も鮮明に残っています。今回の合併で同じ市になって、同級会でも「また一緒にあったね」と話題になりました。

Interview

2006年 新市民の思い、それぞれ。

市民の皆さんのそれぞれの思いが大きな力となり、新市は力強く前進します。
皆さんは新しい市にどんな夢を描きますか？

今年、安曇野市にとって、「地固め」の年と言えるのではないのでしょうか。外へのアピールも大いにすべきだと思いますが、新市民としての意識をみんなが高めていくことが大事になってくると思います。

10万人近い市ともなれば、それぞれの地域の事情や考え方の違いで、地域間で事業などの「ひっぱりあい」が出てくることもあると思います。旧5カ町村が同じ立場で考え、我慢したり、理解したりしながら、早く市民としての一体感が出てくるよう願っています。たとえば、手法などが違ったとしても、安曇野を良い市にしていこうという感覚は皆同じではないでしょうか。そのような思いをこれからも大事にしていけたらと思います。

また、市に対しては、まちづくりの意識を共有しながら進めるためにも、市政情報を広報などでできるだけ早く、分かりやすく伝えてほしいと思います。

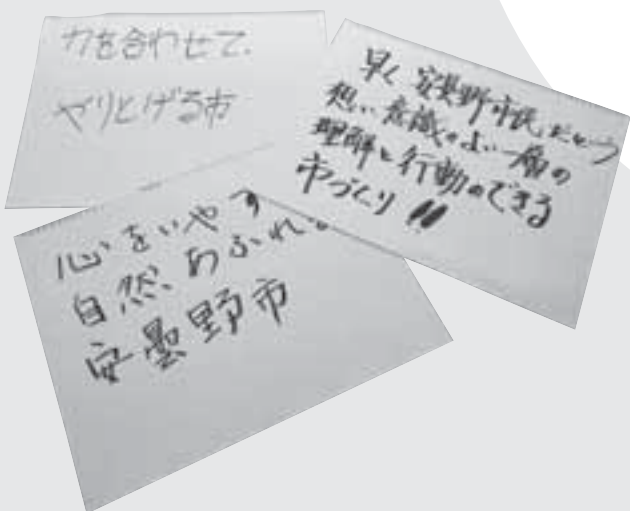
地域としても、自然環境の維持をはじめとした、行動ができるまちづくりをしていきたいと思っています。安曇野の自然は、どの地域にも共通する

財産です。市民がみんなで取り組める良い機会になると思います。

わたしの年代は、これからの人生でそう劇的な変化がない世代だと言えます。新市が心穏やかに、安心して暮らすことのできる場所であってほしいと願います。

そして何より、次世代の人たちにとっても魅力的で、住みたいと思えるまち、また、この地で生まれ、人生を過ごす喜びがわいてくるようなまちづくりができると思っています。

この地で人生を過ごすこと、
その喜びがわいてくるような
市になればと思います。



山崎正志さん
(豊科地域)

平成13年から豊科重柳にあるプラザ安曇野の店長を務める。お店については「農家、生産者が良かったと思える場所にしたい」

みんなでき
やりとげることの
大切さを学びました。



藤原佑斗くん
(穂高地域)

穂高西小学校の5年生。穂高ミニバスケットボールクラブに所属

今はバスケットに夢中です。バスケットを通じて、みんなを心をつなげて、目標に向かってやりとげることの大切さを学びました。僕の所属するチームは身長が低いので、大きいチームと試合をするときには、みんなを力に合わせて、チームワークで根気よくディフェンスをしないと負けてしまいます。

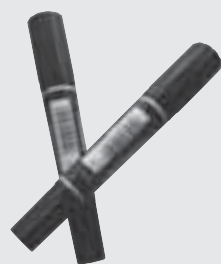
合併して新しい市になったけど、バスケットと同じようにみんなを力に合わせて、新しい市をつくりあげることが

大事だと思います。

安曇野市は自然が豊かです。僕は、秋ごろ少し山に雪が積もったとき見渡す360度の景色が大好きです。環境汚染や地球の温暖化などの問題がありますが、車にたくさん乗らないような環境にするとか、森林を大切にするなど、みんなで大切な自然を守っていきたいと思います。

また、最近では、全国で子どもを狙ったいろいろな事件があります。学校ではCAP(子どもへの暴力防止・人権教育の活動を行うNPO)の人たちから、逃げるときの対応の仕方を学びました。いろいろな人が協力して、そういうことが起こらないような平和な市になってほしいと思います。

僕は今年、バスケットチームのキャプテンになります。僕自身の今年の目標は、キャプテンとして、チームのみんなを引っ張っていくことです。



いぬ年の
市民に聞く